



令和8年愛西市平和祈念式

再び戦争が起こらないよう平和を願う

8月13日、愛西市文化会館で、愛西市平和祈念式が行われました。参加者は、壇上で折り鶴をささげ、平和を願いました。

今年は、被爆体験伝承者として活動されている被爆2世の水野孝則さんが講演。お母さんから聞いた被爆直後の情景を語るとともに、イラクやウクライナでの戦争にもふれ、戦争を昔のこととしないしてほしいと語っていました。



平和祈念式で折り鶴をささげる参加者

こと。使用料金が安く地域活動やサークルが安心して借りられること。愛西市の第2次総合計画でも市が目指す姿として「コミュニティにおける活動支援や活動しやすい環境作りが行われ、地域の連帯感や自治意識が高まり、様々なコミュニティ組織が活動している」としていることなどをあげています。今年も熊本地震や千葉県の水害など日本全国で災害が起こっています。災害時に地域がしっかりと対応するためには、日頃から地域活動が大切です。また、災害時には、自宅避難者などへの対応や地域の復興のためにも、拠点となる「防災コミュニティセンター」は必要です。避難所となる学校施設は、

「旧佐屋北保育園を避難場所として存続を求める請願」

この請願は、柚木・日置地区の唯一の避難場所である旧佐屋北保育園を存続してほしい、学童クラブもいっぱいで入れない状況を改善してほしい、などの声をもとに、保育園の復活と複合施設としての活用を求めるものです。

その代替にはなりません。市から、廃止に向けた具体的提案はありませんが、市は、センターを存続し、災害時の具体的な活用をもっと真剣に検討すべきです。

8月24日、愛西市議会9月定例会が始まりました。9月議会には「防災コミュニティセンターの存続を求める請願」（請願団体・愛西市未来をひらく会）、「旧佐屋北保育園を避難場所として存続を求める請願」（請願者・中島義雄氏）が上程されました。いずれも日本共産党の河合かつぺい議員が紹介議員となっ

ています。愛西市未来をひらく会の請願は、市が公共施設等個別施設管理計画で廃止を打ち出してきた施設の中でも特に地域の防災拠点である「防災コミュニティセンター」の存続を求めるものです。請願では「防災コミュニティセンター」は地域の住民活動の拠点で、災害時には避難所や給水活動などの拠点となる

「防災コミュニティセンターの存続を求める請願」
「旧佐屋北保育園を避難場所として存続を求める請願」
愛西市議会9月定例会に請願2件提出される

原水爆禁止世界大会に参加して

8月4～6日まで「原水爆禁止2026世界大会」にみなと医療生協の一員として参加しました。みなと医療生協の組合員が折った折鶴を「原爆の子の像」に捧げました。

原水爆禁止世界大会は、広島県立総合体育館で開会総会が始まりました。開会宣言、海外代表、全国代表の紹介のあと、先に行われた「国際会議」の報告があり、「日本政府は唯一の被爆国であるにも関わらず、米国の核の傘に依存し、核兵器禁止条約への参加を

拒否し、かつ非核三原則の見直しまで企てているのは許しがたい。若い世代とともに、被爆者とともに未来への希望を胸に、その実現に力を合わせよう」と力強い報告でした。分科会では、全国から参加した若者の話を聴くことが出来ました。

これからの10年20年後をこの青年たちが支えてくれるのだと思うだけでもこの世界大会に参加して良かったと感じました。
(大井町 宮本和子)

